

第3回企画調整部会における論点について

第2回企画調整部会での意見交換をもとに、かながわ青少年育成・支援指針に関わる論点を整理した。

○ 「かながわ青少年育成・支援指針」にまつわる言葉の再定義

- ・「青少年」と「子ども・若者」について
- ・「自立」について
- ・「健全育成」について
- ・「困難を有する青少年」について

○ 「困難を有する青少年」とその支援について

- ・ 困難な状況になる前の、予防的な支援の必要性、予防的な支援で食い止める、救うことが求められる。
- ・ 予防的な支援に必要なこととして相談窓口のハードルをさげることが必要で、相談というものではなく、フラットに話ができる、気軽に利用しやすいサポートの場が必要ではないか。

○ ひきこもり支援について

- ・ ひきこもりの支援について、オンラインを活用して、ひきこもりの本人の生活空間に入っていけるような支援をして、つながりをつくっていくことの可能性がある。
- ・ ひきこもりの支援の中で、自立を目指しているが、従来イメージされてきた自立（就職し、生計を立てる）だけではなく、今は働き方もリモートワークも含め色々な仕事ができ、働き方が拡張されている。これからの若者の自立や、どのようにして生活者にしていくのかということの議論が必要である。

○ 多機関連携による支援のあり方

- ・ 包括的な支援が重要という視点で、連携が大事だと言われているが、具体的な連携の仕方が共有されていない。
- ・ 多機関連携については、既にその必要性を言われているが、実質的に機能させるためには、どんなアイデアが必要か。

○ 青少年をはぐくむ地域社会づくり

- ・ 人生100年時代ということを前提に、子どもをはぐくむことについて、地域社会がその役割を担っていくことが政策的に期待されている。
- ・ 青少年をはぐくむ場としての地域社会づくりが重要であり、施策としてどういったことが考えられるのか。